

議会報告会実施報告書

令和6年8月28日

鹿角市議会議長

報告者 湯瀬 弘充

1 議会報告会の概要

開催日時	令和6年8月28日 18:00
開催場所	花輪市民センター 講堂 (コモッセ内)
出席議員	議会運営委員：(倉岡 誠・館花 一仁・田村 富男・成田 哲男・湯瀬 誠喜・金澤 大輔(司会進行)) オブザーバー：中山 一男・栗山 尚記・笹本 真司 議会広報委員会：湯瀬 弘充・浅石 昌敏
参加者数	56人 (男性40名、女性16人)
実施内容	別紙参照
質問・意見等	別紙参照
その他 特記事項	

「かづの観光物産公社に対する市長発言に関わる事項」 についての議会報告会を開催

8月28日、花輪市民センター講堂(鹿角市文化の杜交流館コモッセ内)を会場に、「かづの観光物産公社に対する市長発言に関わる事項」について、議会報告会を行いました。

報告会には議会運営委員及び議会広報委員の議員11名が出席し、議会運営委員会での審査の経過や審査内容の報告を参加者56名に行いました。



議会報告会内で参加者の皆様から出された質問・意見

【質問及び回答】

Q. 資料内の記述で「貸し付けた秋田銀行はあたかも不審な融資をしたかのように周囲から言われ不利益を被っている」とあるが、誰がそう思っているのか。

A. 市長は5,000万円の借入金について、本来であれば保証人をつけなければ借りることのできないなど情景を含めて話をしている。その内容を含めた噂が巷に広まっており、受け取り方によっては借入金を貸した側である秋田銀行が不審な融資をしたかのように思われてしまっている。

Q. 「令和5年12月14日の市議会定例会一般質問に対する答弁において「長期借入金5,000万円を借り入れた結果、第28期の貸借対照表で約1億円の赤字となっております」という発言に対しての調査」について1億円の赤字とあるが、かづの観光物産公社の利益はどうなっているのか。

A. 第28期については単体で190万円の赤字となっている。これまでの累積として4,700万円の負債があり、その他に借入金の5,000万円がある。

しかし、税理士によると借り入れ分の5,000万円については赤字ではなく資産としての計上となることから、市長の1億円の赤字という表現については到底受け入れることはできないものである。

Q. 確かに市長が1億円の赤字と大きさに言ったことについては悪いと思うが、経営という目線で見れば、1円でも1億円でも赤字としては同じではないか。

A. 経営という目線で見れば、確かに赤字を出しているということに関しては同じかもしれないが、この1億円の赤字という表現が独り歩きした際の公社への影響は大きい。

そのため専門家の意見も交えて事実調査を行う必要があり、調査した結果が今回の報告であることを認識いただきたい。

Q. 第28期をずっとされていたが、現在の公社は黒字か。また、第28期以前は赤字ばかり続いていたのか。

A. 第28期の収支については赤字であったが、第29期からは黒字となっている。第28期以前についても赤字ばかりということではないということをご留意いただきたい。

また、公社の社長が畠山社長に交代してからは公社内の改革により黒字化、公社の体質も変わってきている。

Q. 公社の経理状況について、公社の担当の税理士ではない別の第三者から見てもらうことはできなかったのか。資産借入れをすることで借入金が資産に計上されるというのはあまり中立的な発言ではないように思われるが。

A. 借入金について見方についてはいろいろあるかもしれない。公社の担当も変わり、昔の修正分もあったことから、あくまでも専門家から意見を聞くという意図で話をお伺いしている。こちら側に色々と答えてほしくて公社の担当税理士に伺ったわけではない。

Q. 説明の中に2名税理士が出てきたが、2名の税理士には意見の相違はあったか。

A. 税理士についてはこの問題の前に市長に依頼され、公社の財政の内情を調査したのが黒沢税理士、28期の決算内容を確認するため話を伺ったのが畠山税理士であり、その部分で異なっている。

Q. 長期借入金の5,000万円は借りる必要がそもそもあったのか。

A. コロナ禍で先行きの見えない状況の中、資金不足を起こすことを避けるために国のコロナ対策の借入れを行ったもので、その時点で明確な使用目的はなかったと公社から伺っている。



【意見】

◇市議からも公社の利益が上がるような意見・提案を出してほしい。

◇職員調査の記述の中で、市長からのパワハラの発言があったとある。市の職員が実名で議会に対して上申書を提出し、真実を伝えたということはとても重要な事である。職員を守るためにもしっかりと調査し、市長と職員の関係性が良好になるよう議会のほうからもバックアップをお願いしたい。

◇資料が物足りないと感じた。数字を示した客観的根拠のある資料を作成いただきたい。

◇今回の問題は市長の一人行動が招いたことではないか。市長は職員や議会などと話をしてから進めるべきであった。市長にはその辺をきちんと判断して行動いただきたい。

◇議員の方々も市長と対立するのではなく、一期目の市長を育てる立場であってほしい。

